

かわさき かわら版

2013 春号

No.9

CONTENTS

●「院長就任のごあいさつ」

院長 角田 司

シリーズ 元気をつくるNo.5

●「心を健康に保つ」

心療科医長(精神科学講師) 末光 俊介

専門外来のご紹介

●「腹部大動脈瘤専門外来」

外科副部長(総合外科学准教授) 森田 一郎

地域連携便り

●「～かかりつけ医を持ちましょう～」

飛岡内科医院

新病院 新築工事ニュースVol.4

●「新病院着工に向けて

埋蔵文化財発掘調査の現地説明会開催

大学事務局総務部新病院開設準備室

院長就任のごあいさつ



院長 角田 司

このたび、4月1日をもちまして、川崎医科大学附属川崎病院 院長に就任いたしました。初代病院長故川崎祐宣名誉理事長の「病院は患者のためにある」という思いを継承し、これまで以上に地域の皆様から信頼され、先進的で質の高い高度な医療を提供してまいりますので、よろしくごお願い申し上げます。さらに、診療体制の更なる強化と整備を積極的に進め、一般的な疾患はもとより、増加するがん等の難治性疾患にいたるまで、専門医を中心としたチーム医療により、地域の皆様にとりまして安全・安心な医療を提供してまいります。

現在の病院施設設備は、築後数十年が経過しているため、平成25年内の着工に向けて新病院の新築移転を計画しています。「川崎医科大学の附属病院として安全・安心な医療を提供し、地域と共生する病院」というコンセプトのもと、新しい病院づくりを推進していきます。

地域の皆様に信頼され、安全・安心な医療を提供できる病院づくりに向けて職員一同努力してまいりますので、今後とも引き続き、ご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲新病院イメージ図



シリーズ 元気をつくる No.5 (No.1~No.5)

心を健康に保つ

心療科医長(精神科学講師) 末光 俊介



心が健康であるというのはどういう状態でしょうか？ 人によって答えは違うと思いますが、「充実した毎日を過ごしていると実感できること(または将来充実した状態になるだろうと予測できること)」というのも答えの一つだと思います。いくら周囲の人がうらやむような生活を送っているとしても、その人自身が充実していると実感していなければ、心は不健康な状態といえるでしょう。

今の自分の状態を良いものだと思えるようになることは、心の健康を保つうえでとても大切だと思います。今の自分や周りの状況の良い面を捉えることができる能力、いわゆるポジティブシンキング(前向きな考え方)が大切です。前向きな考え方が苦手な方は、まずは今の状態の自分を認めてあげること、そして自分を好きになることから始めてみましょう。例えば、現在の自分をありのままに認めてあげて、日々頑張っている自分を褒めてみてあげてはいかがでしょうか。そんなに簡単に言われても難しいという方は、まずは鏡を見る回数を増やして、にっこりと微笑む練習をして、自分に笑いかけてあげましょう。たとえ最初は作り笑顔でも、笑顔は意外に効果があります。笑うことでNK細胞の活性化につながり、免疫機能がアップするともいわれています。心を健康に保つことは、身体を健康に保つことにもつながります。

また、十分な睡眠をとることもとても大切です。質の高い睡眠は、免疫機能を高め、心や身体の痛んだ部分を修復してくれます。

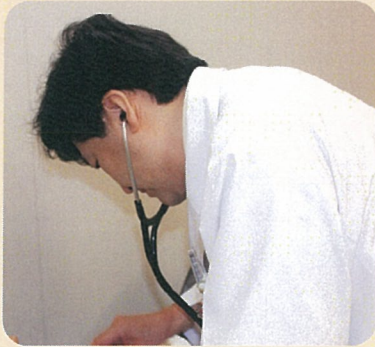
自分を認めて、笑顔を増やして、しっかり睡眠をとり、心を健康に保つように心がけてください。



専門外来のご紹介

腹部大動脈瘤専門外来

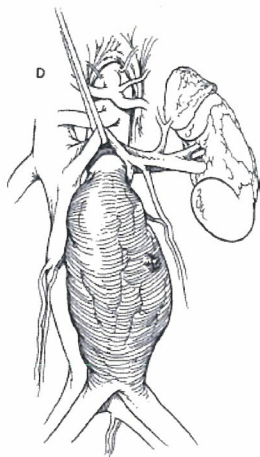
外科副部長（総合外科学准教授） 森田 一郎



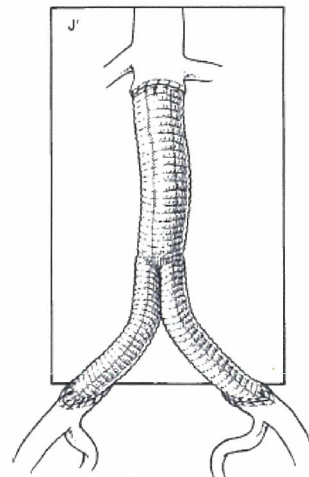
腹部大動脈瘤とは、脊椎の前に位置する、腹部で最も大きな動脈が正常の1.5倍以上に拡張したものをいい、直径3cmを超えたものが相当します。現在、生活習慣病の増加に伴い患者数も増加しています。症状は無症状のことが多く、痩せている方は上腹部の拍動性腫瘍、また瘤が増大してくると腰痛や腹痛を認めることもあります。突然腹痛・ショック症状、すなわち破裂で発症することもあり、破裂すると死亡率が高く、非常に怖い病気です。最近では検診時に発見されることも多く、径4.5cmを超えると破裂する危険性が増加してくるため治療を受けなければなりません。治療は、

従来のお腹にメスを入れて瘤を切開し人工血管で置換する方法と、ステントグラフト内挿術といって、瘤前後の血管径サイズに合わせて人工血管とステントを合わせてステントグラフトを作製し、瘤に内張りするように血管内より留置する方法があります。ステントグラフトの進歩で、かなり屈曲しているような症例や、腎動脈に近いところから瘤化している症例でも手術ができるようになってきており、治療の主流になってきています。

この専門外来は、破裂すると命にかかわる腹部大動脈瘤を早期に見つけ、破裂する前に治療することを目指しております。ご家族や親族に動脈瘤の既往歴がある方、生活習慣病の患者さん、当外来で精査してみませんか。お待ちしております。



術前



術後

専門外来日 火曜日…午後(受付13:30~16:00)
木・土曜日…午前(受付 8:30~11:30)

お問い合わせ先…外科受付(内線3277)



地域連携便り
～かかりつけ医を持ちましょう～

飛岡内科医院



院長 飛岡 宏 先生

診療科目 一般内科
往診 積極的に行っています
T E L 086-233-1188
F A X 086-227-6263
休診日 木曜日・土曜日午後、日曜日、祝日

所在地 岡山市北区中山下2丁目8-30



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30～13:00	○	○	○	○	○	○	休診
16:00～18:00	○	○	○	休診	○	休診	休診

木曜日は飛岡 隆の外来日です。

往診日 月曜日、火曜日、金曜日の13:00～16:00

先生からのコメント

これからは、余程むずかしい病気であれば長期間入院できない時代になります。患者さんと家族は、受けることのできる医療・介護・福祉サービスの種類・内容について、サービスを提供する人々（医師・訪問看護・ケアマネ）から十分な説明を受け、話し合いながら決定します。患者さんは、病院と診療所が連携して作られる「セーフティーネット」（在宅療養環境）の上で、自宅や療養施設で闘病生活を送ることになります。

飛岡内科は、こんな時代に、在宅で静かに、優しく生きていきたいという患者さんを応援するために、医療連携と在宅医療に正面から取り組んでいます。

新病院 新築工事ニュース Vol.4

大学事務局総務部新病院開設準備室

新病院着工に向けて 埋蔵文化財発掘調査の現地説明会開催

平成25年2月2日（土）10:00から新病院建設予定地で、岡山市教育委員会主催による埋蔵文化財発掘調査の現地説明会が開催されました。岡山市民ら約200人が参加し、岡山市教育委員会の担当者から説明を受けながら、当時の武家屋敷の遺構、陶器や木製品といった遺物の見学を行いました。遺物の中には、茶道に深く関わる陶器などもあり、当時の武士たちの文化的な生活の一端をうかがうことができました。



▲発掘調査の現地説明会風景



▲出土された遺物（木製品）



▲出土された遺物（陶器）



川崎医科大学附属
川崎病院

〒700-8505 岡山県岡山市北区中山下2-1-80
TEL. (086) 225-2111 (代) FAX. (086) 232-8343

病院庶務課庶務係 (内線) 3316, 3318
<http://www.kawasaki-m.ac.jp/kawasakihp/>
E-mail: kwsyomu@med.kawasaki-m.ac.jp

